

第2章 半田市の環境

1. 環境の現状

1) 半田市の概要

(1) 位置

半田市は、知多半島のほぼ中央に位置し、面積は 47.24km^2 、東西 9.76 km 、南北 8.22 km であり、北は東浦町、阿久比町、西は常滑市、南は武豊町に接しています。また、東は衣浦港となっており、海岸線の延長は 10.70km です。

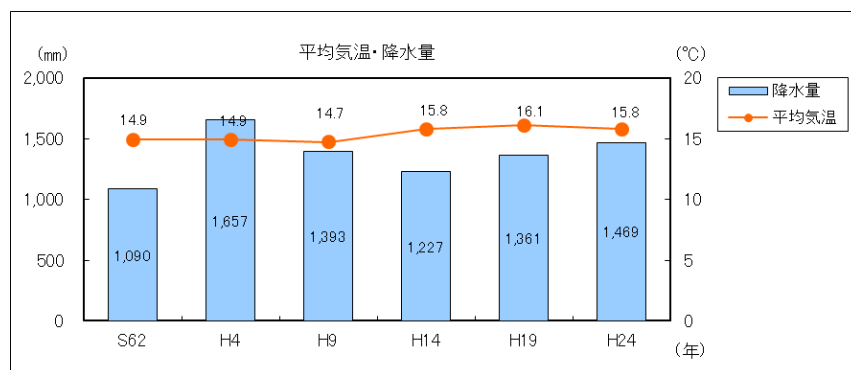
地形は中央を南北に流れる阿久比川によって西部丘陵地と東北部丘陵地に分かれます。これらの丘陵地はさらに神戸川、稗田川により2分され、概ね4丘陵となっています。



(2) 気 象

南知多地域気象観測所の観測結果によると、平成20年から平成24年までの5年間の平均気温は約16.1℃、年間平均降水量は約1,587mmとなっています。平成10年から平成19年までの10年間の平均気温は15.6℃であることから、平均気温はやや上昇傾向にあると考えられます。また、近年の夏の平均気温は非常に高く、平年を大幅に上回る日が続いている状況です。

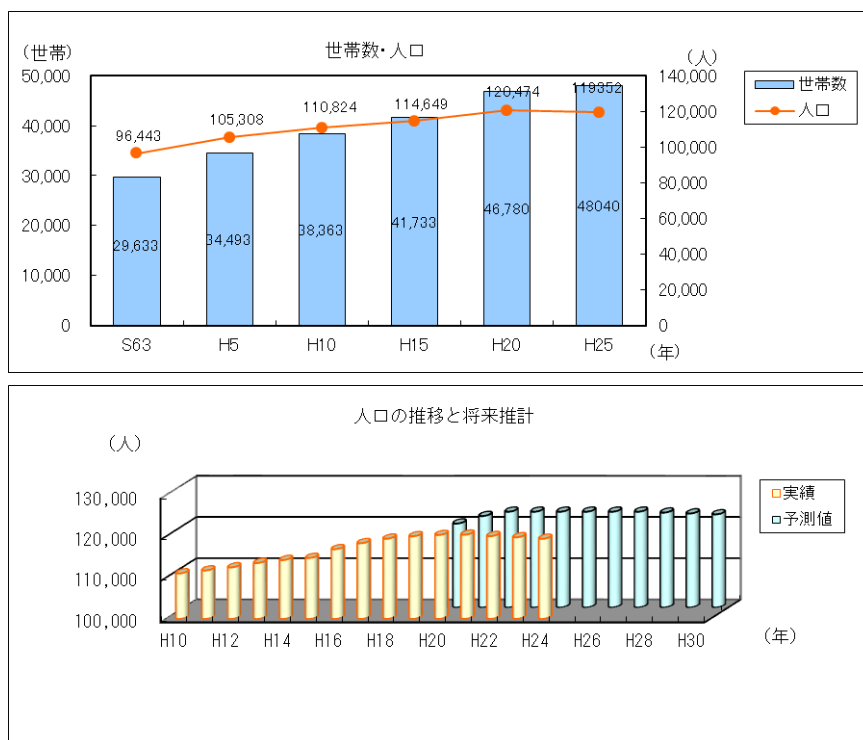
風向きは主に北西の風であり、風速は年平均で3.1m/s、冬から春にかけてやや風の強い傾向にあります。



資料：「気象庁：気象統計情報」

(3) 人 口

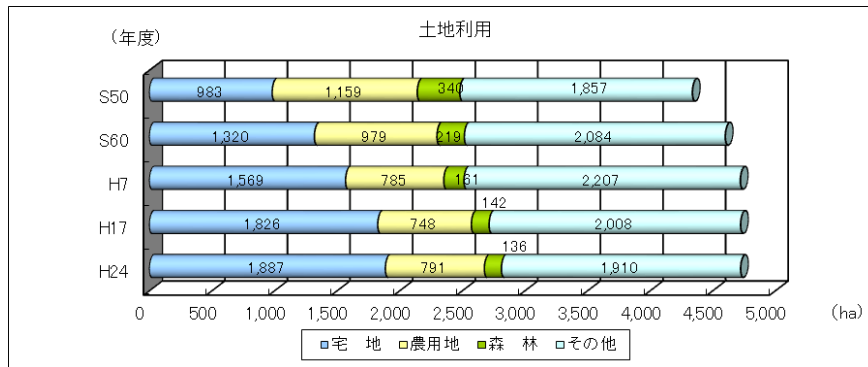
市の人口は、市制施行当時(昭和12年)の50,477人から平成7年には倍の10万人、平成20年3月には12万人を超え、年々増加してきました。全国的には人口減少局面に入っていますが、本市にあっては、平成23年以降ほぼ横ばいの状況にあります。



資料：半田市

(4) 土地利用

土地利用は、昭和 50 年から約 40 年の間に、宅地が約 1.9 倍増加しています。一方、農用地は約 68%、森林は約 40%に減少しています。

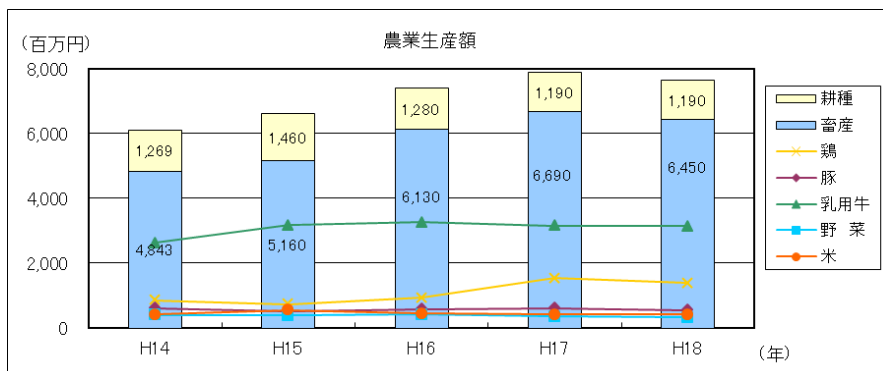


資料：「土地に関する統計年報」

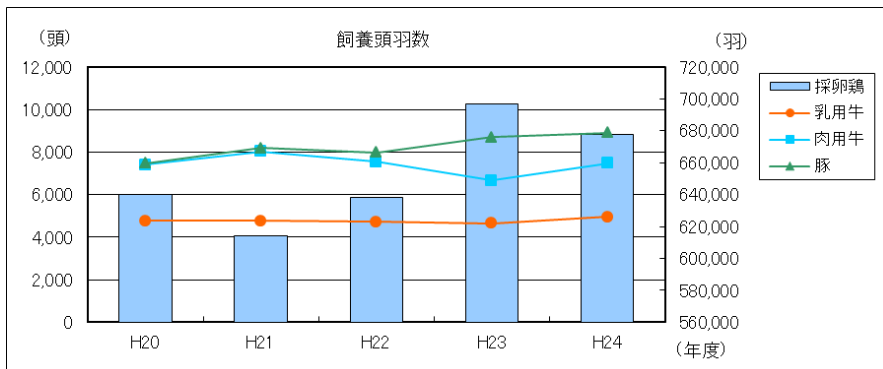
(5) 第一次産業

農業生産額は、平成 14 年から平成 17 年までは増加傾向にありますが、平成 18 年度は減少しています。半田市の農業生産額のうち畜産が 85%を占めており、平成 18 年には 64 億円を超えています。

家畜の飼養頭数は、採卵鶏が増加し、平成 20 年度の 640,000 羽から平成 24 年度には 678,000 羽と約 40,000 羽増加しています。牛は乳用、肉用ともにほぼ横ばいで推移していますが、豚は緩やかに増加しています。



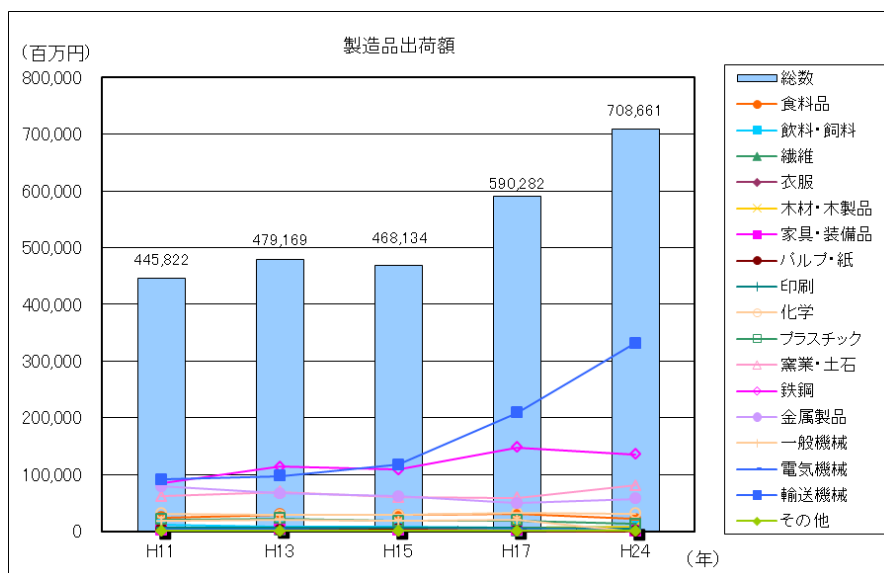
資料：「生産農業所得」



資料：「畜産基本調査」

(6) 第二次産業

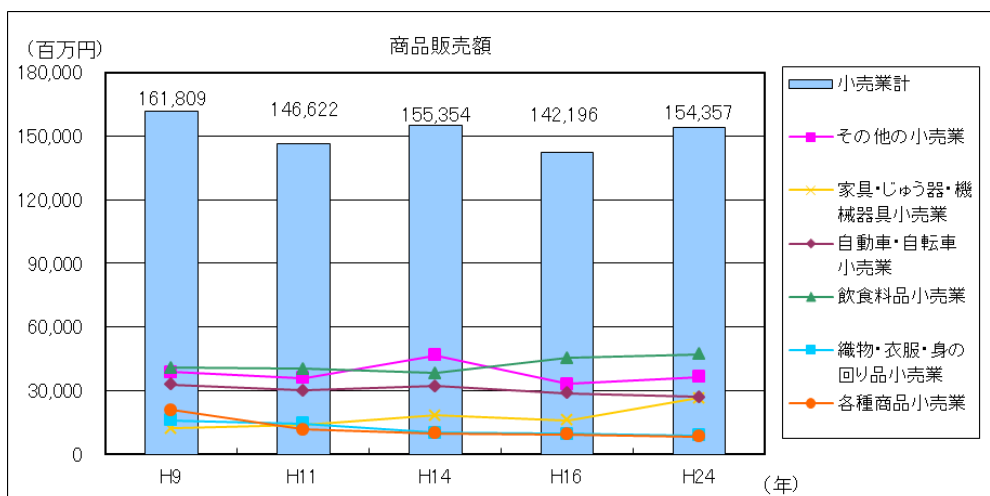
製造品出荷総額は、平成9年から平成15年にかけて4,500億円前後で推移していましたが、平成24年には7,000億円を超えています。特に平成15年度以降の輸送機械の伸びが著しく増加しています。



資料：愛知県統計年鑑

(7) 第三次産業

第三次産業は、公益事業、飲食業、教育産業等を含む産業の集合体であるため、全事業所を対象とした調査は行われておらず、ここでは小売業の販売額を示します。小売業の販売額は、平成9年をピークにやや減少傾向にあります。内訳では、飲食料品小売業や自動車・自転車小売業はほぼ横ばいですが、各種商品小売業（総合スーパーなど）や織物・衣服・身の回り品小売業はやや減少傾向にあります。



資料：「あいちの商業」

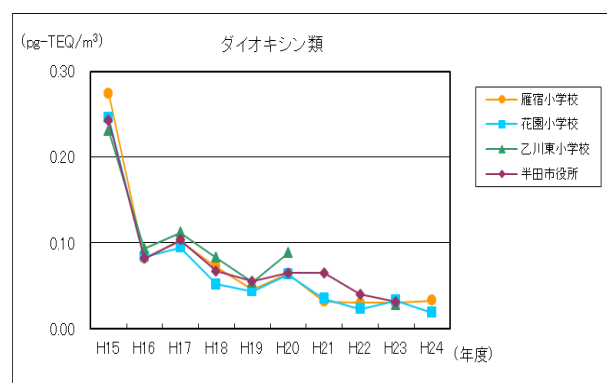
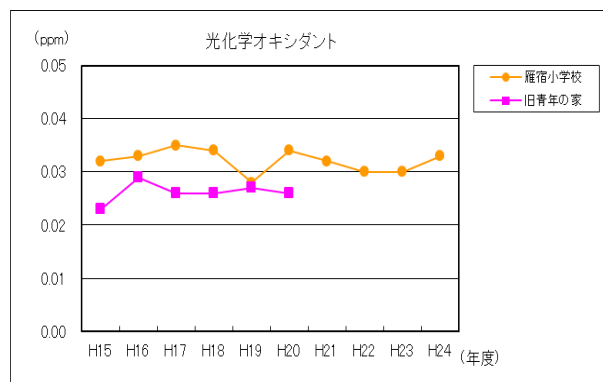
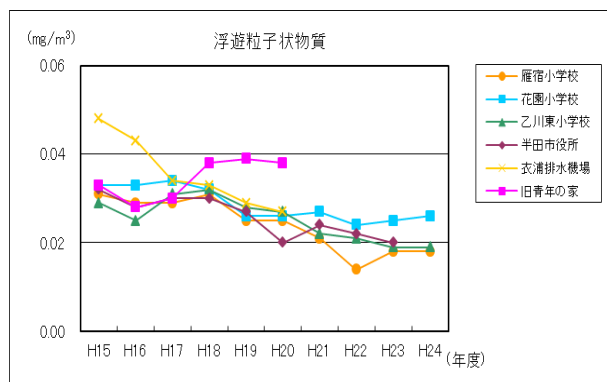
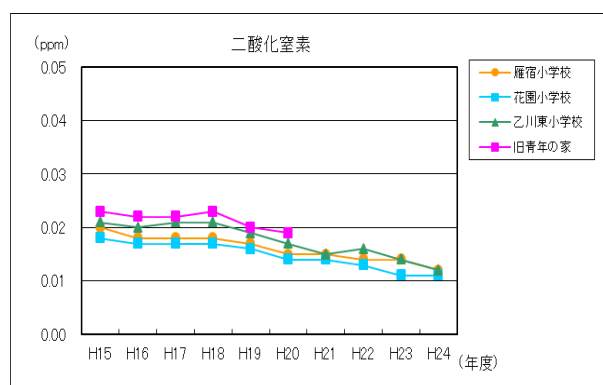
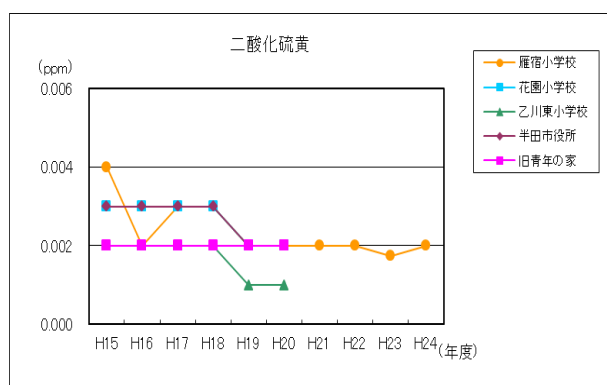
2) 生活環境

(1) 大気質

市内における大気汚染常時観測結果では、過去 10 年間、二酸化硫黄、二酸化窒素及びダイオキシン類ともに環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質は、近年では各地点とも概ね環境基準を達成しています。

二酸化硫黄はほぼ横ばい、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類は年変動があるもののやや減少傾向にあります。

光化学オキシダントは、環境基準を達成していないものの、全国的に他市町と比較しても突出している状況ではありません。



※1: 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類は、年平均値です。

※2: 光化学オキシダントは、昼間の一時間値の年平均値です。

※3: TEQ は、毒性等量の意味でダイオキシン類の化合物のうち、最も毒性の高い

2,3,7,8-テトラクロロジベンゾーパラジオキシンに換算したことを表します。

※4: 1ppm は、100 万分の 1 の割合を意味します。

※5: 1pg は、1 兆分の 1g を意味します。

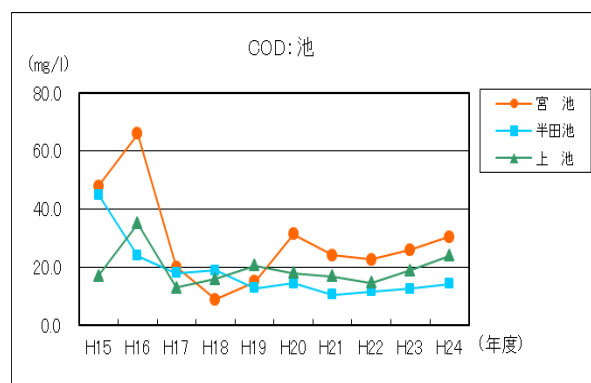
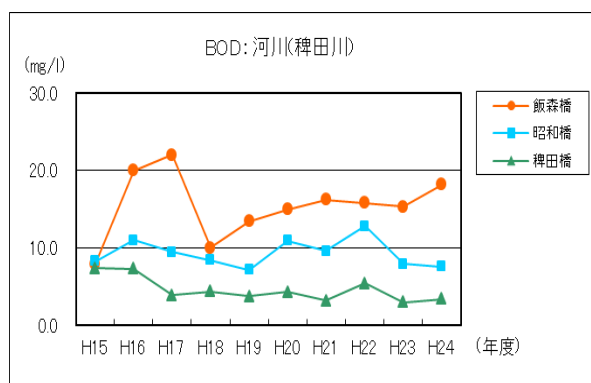
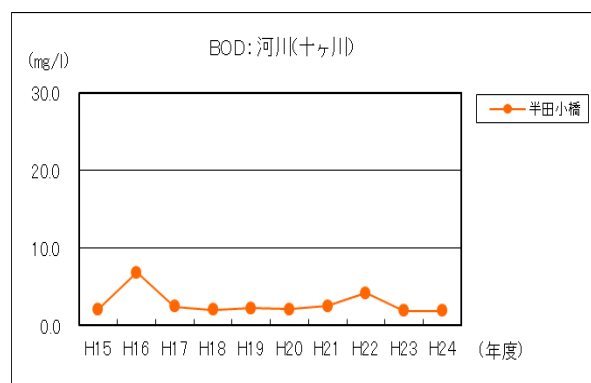
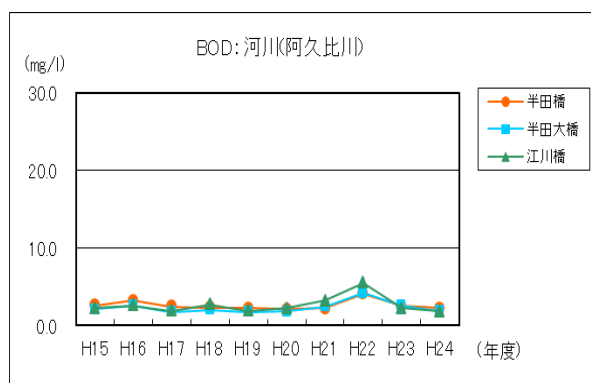
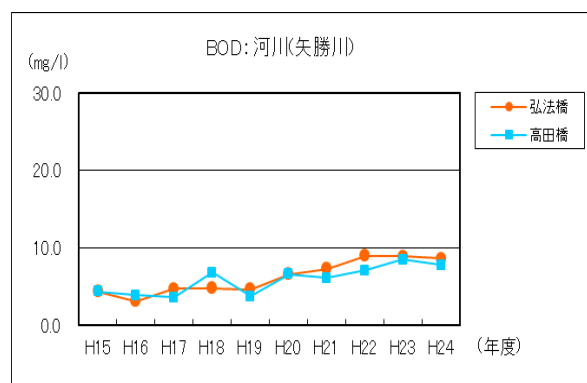
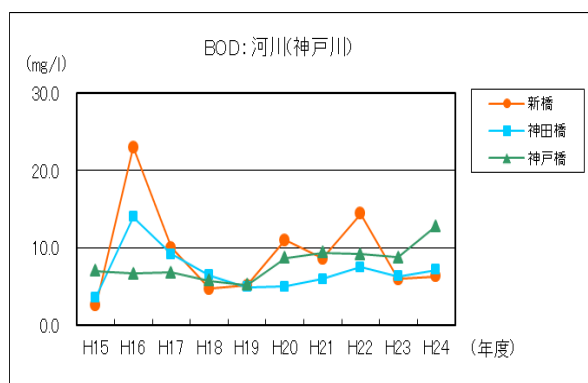
資料:「大気汚染常時観測結果」(愛知県)、「半田市」

(2) 水 質

水の汚れの指標となる BOD（生物化学的酸素要求量）は、市内の5河川はほぼ横ばいで推移しています。

しかしながら、神戸川下流（神戸橋）及び稗田川上流（飯森橋）は悪化の傾向にあります。

また、市内の主要なため池の COD（化学的酸素要求量）は、半田池及び上池に比べて宮池の値が高い傾向にありましたが、平成 16 年度以降はほぼ横ばいで推移しています。



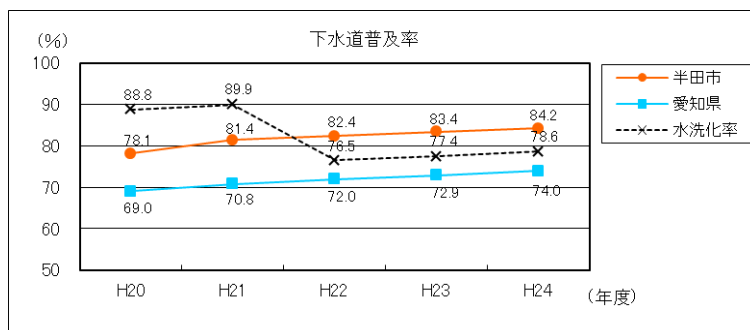
資料：「半田市」

(3) 下水道

市の下水道普及率は、平成11年度には50%を超え、平成12年度には県の普及率を超えました。平成24年度には84%以上に達しており、順調に増加しています。なお、下水道整備区域外については、合併浄化槽の設置を推進しており、合併浄化槽率は、平成24年度で約26%にある状況です。

■下水道整備計画

実施年度	実施場所	概要
26	清城町二丁目の一部、三丁目の一部、 北二ツ坂町一丁目の一部、二丁目の一部、三丁目の一部 山代町二丁目の一部 土井山町一丁目の一部 板山町十一丁目の一部、十二丁目の一部、十三丁目の一部 大湯町一丁目の一部	平成27年3月供用開始 予定区域
27	柊町五丁目の一部 土井山町一丁目の一部、 山代町二丁目の一部、 板山町十四丁目の一部、十五丁目の一部	平成28年3月供用開始 予定区域

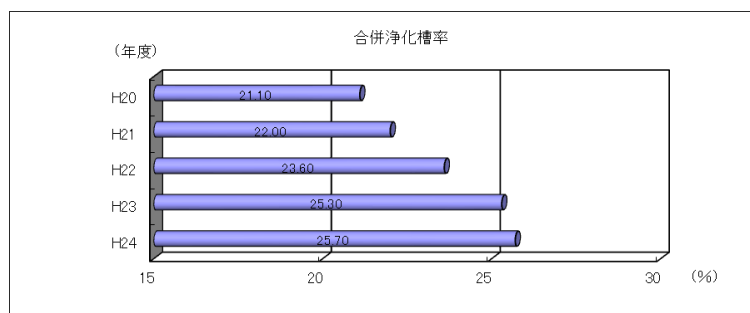


※下水道普及率＝処理区域内人口／総人口×100

資料：「愛知県」、「半田市」

※水洗化率＝水洗化人口／処理区域内人口×100

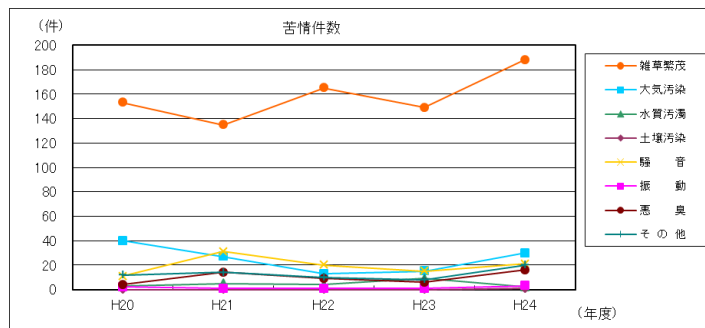
※水洗化率は22年度から人口を単純に積み上げて算出する方式から、世帯の接続状況をもとに算出する方式に変更した。



※合併浄化槽率＝下水道整備区域外合併浄化槽設置基数／下水道整備区域外浄化槽設置基数×100 資料：「半田市」

(4) 苦情件数

苦情件数は、空き地などの雑草繁茂に対する苦情が最も多く、次に大気汚染（ごみ等の屋外燃焼行為）の苦情が多い状況です。発生源としては、日常生活から生じる苦情が増加している傾向にあります。



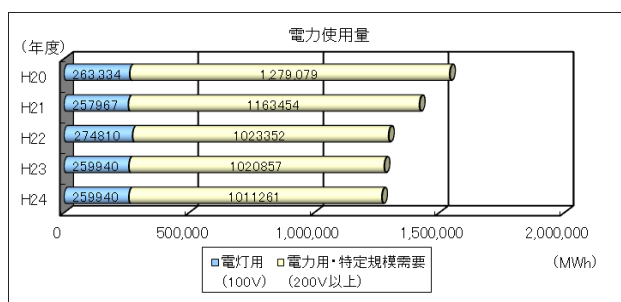
資料：「半田市」

3) 地球環境

(1) エネルギー使用量

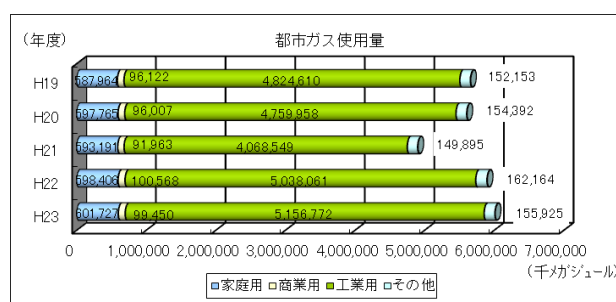
電力使用量及び水道給水量は減少傾向にあり、都市ガスは増加傾向にあります。家庭用電力（電灯用 100V）や家庭用都市ガスの使用量は、大きな変化はありませんが、工業用電力（電力用・特定規模需要 200V 以上）は大きく減少しています。また、工業用都市ガスは増加傾向にあります。

本市では、家庭における地球温暖化対策の一環として、家庭用燃料電池システム（エネファーム）を促進するため、平成 22 年度から、その設置費に対して補助金を交付しています。平成 24 年度には 10 件の補助金の交付を行っています。



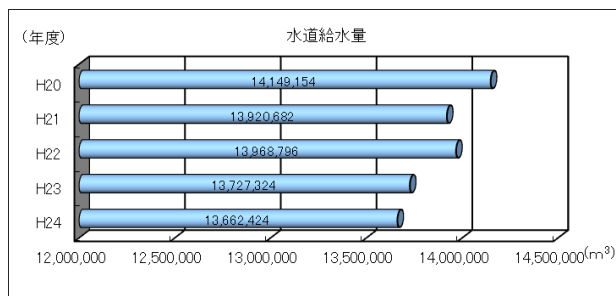
※Mwh=Kwh × 1,000

資料：「中部電力」



資料：「愛知県統計年鑑」（愛知県）

※特定規模需要とは契約電力が原則 50Kw 以上で、特別高圧電線路または高圧電線路から受電している需要家の需要です。



資料：半田市

■高効率給湯器等設置台数（単位：台）

	エコキュート		エコウィル		エコジョーズ		エネファーム		合 計	
年度	年間	累計	年間	累計	年間	累計	年間	累計	年間	累計
H20	368	1,388	18	140	182	676	-	-	568	2,204
H21	365	1,753	17	157	287	963	-	-	669	2,873
H22	440	2,193	12	169	241	1,204	10	10	703	3,576
H23	366	2,559	11	180	278	1,482	18	28	673	4,249
H24	461	3,020	19	199	320	1,802	22	50	822	5,071

資料：「半田市」

(2) 再生可能エネルギー

温室効果ガスの発生を抑制し、クリーンエネルギーの利用を促進することを目的として、住宅用太陽光発電システムを導入した市民に対して、その設置に対して補助金を交付しています。平成24年度には253件の補助金の交付を行っています。

■住宅用太陽光発電システムの設置台数（単位：台）

	太陽光発電システム	
年度	年間	累計
H20	53	358
H21	104	462
H22	275	737
H23	349	1,086
H24	342	1,428

資料：「半田市」

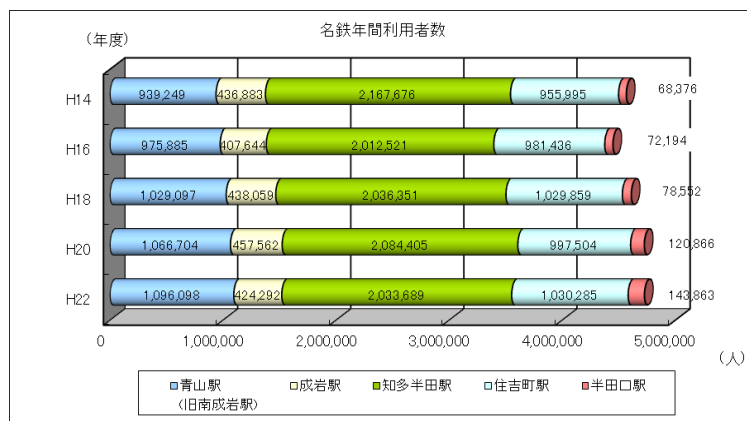


太陽光発電システム

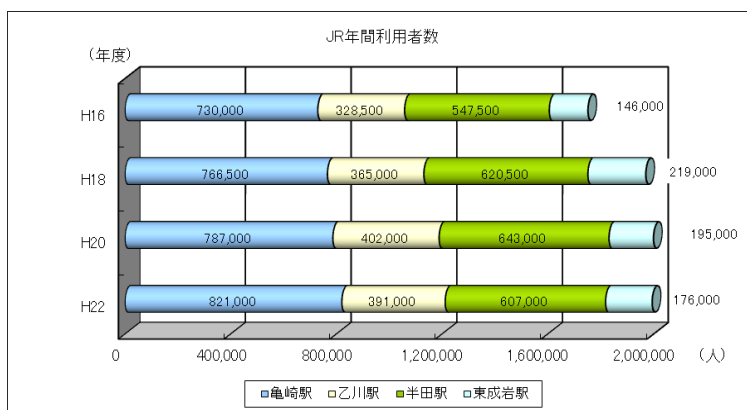
(3) 交通

① 鉄道

市内の名鉄各駅の年間利用者数は増加傾向にあり、特に青山駅の利用者数が増加しています。また、JR 各駅の年間利用者数は増加しています。特に亀崎駅の利用者数が増加しています。



資料：「名古屋鉄道(株)」



※各駅の一日当たりの平均乗車数に365日を乗じて、年間利用者としています。 資料：「東海旅客鉄道(株)」

② バス

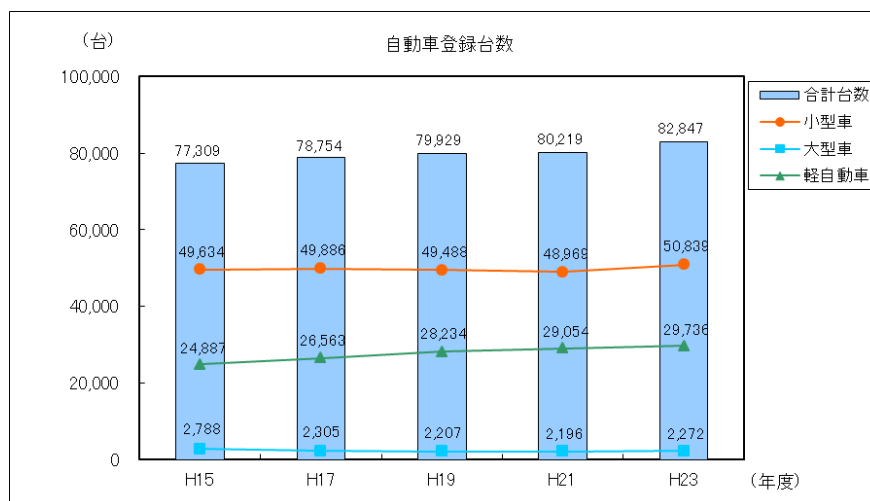
市内のバスの利用者数は、平成19年度が約33万人、平成24年度が約27万人と減少傾向にあります。



公共交通機関（バス）

③ 自動車

市内の自動車登録台数は、平成15年から平成23年にかけて増加傾向にあります。車種別では、トラックなどの大型車は減少傾向、一般の乗用車にあたる小型車はほぼ横ばいであるのに対し、軽自動車はやや増加傾向にあります。



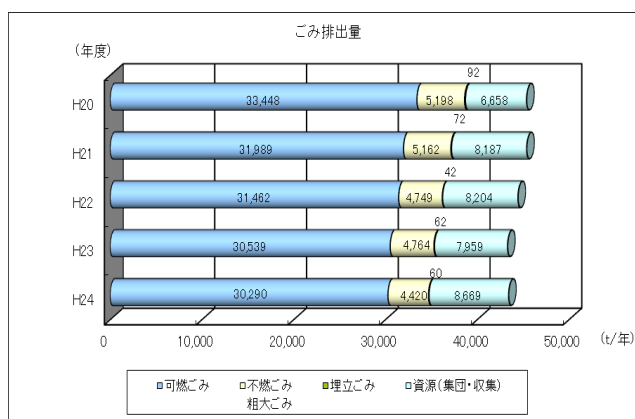
※特殊車両・被けん引等は除きます。 資料：「中部運輸局愛知運輸支局」、「半田市」

4) 廃棄物・リサイクル

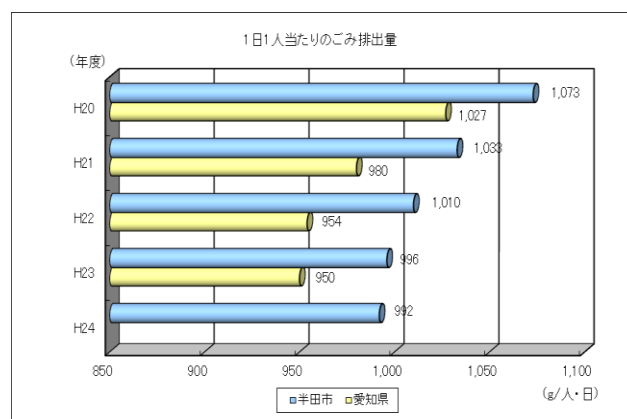
(1) ごみ

ごみ減量対策として、平成23年度から、ごみ収集分別をこれまでの4種分別（可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック製容器包装、ペットボトル）から5種分別（紙製容器包装・その他紙類を追加）に変更しました。

また、市民1人1日当たりのごみ排出量は、県平均よりも多い状況にありますが、年々減少傾向にあります。



資料：「半田市」



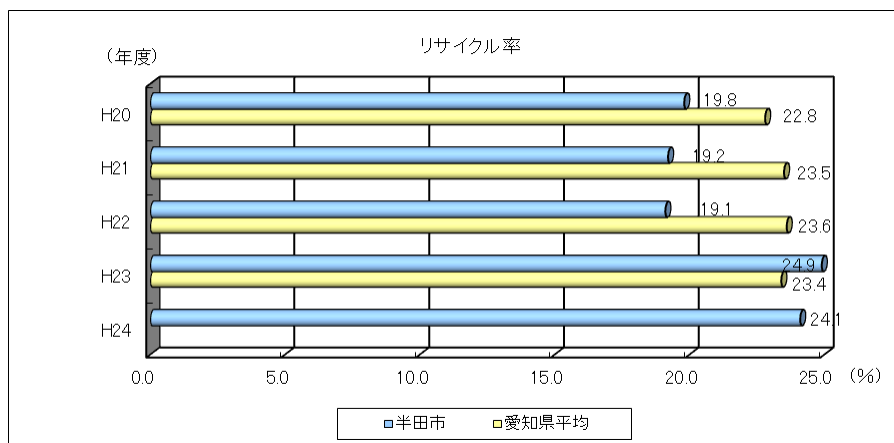
※1人1日当たりのごみ排出量＝（収集ごみ＋直接搬入＋集団回収）／（人口×365）

資料：「一般廃棄物処理事業実態調査」（愛知県）、「半田市」

(2) リサイクル

① リサイクル率

ごみの5種分別の実施により、平成22年度には19.1%であったリサイクル率は、平成23年度には24.9%と大幅に上昇し、県平均よりも0.5%上回っている状況にあります。

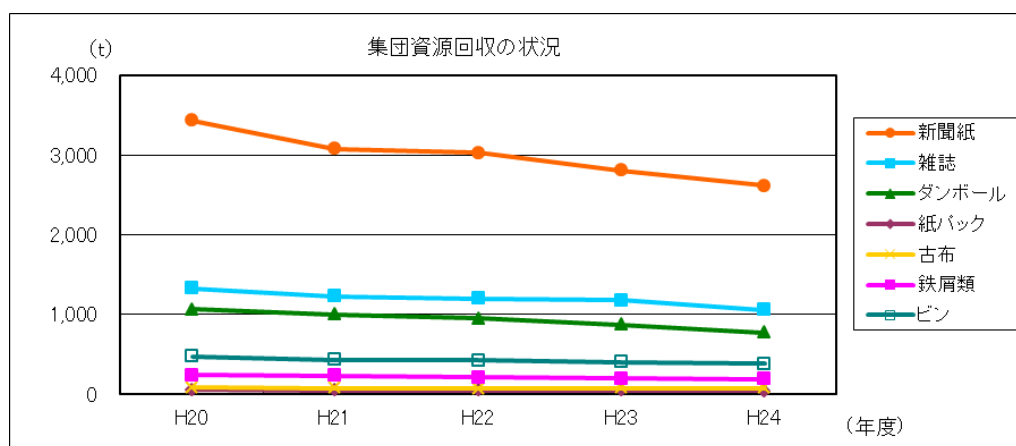


リサイクル率＝総資源化量/ごみ排出量 資料：「半田市」

② 集団資源回収量

市では昭和61年度から空びん回収事業、平成元年度からアルミ缶、スチール缶の回収事業、さらに平成2年度からは紙パック回収事業を始め、資源回収の一層の拡大を図るとともに、ごみ減量と資源の再利用を推進しています。

新聞紙、雑誌及びダンボールの回収量はやや減少傾向にありますが、それ以外の資源回収量はほぼ横ばいです。



資料：「半田市」

5) 自然環境

(1) 自然環境の概要

市内の代表的な自然環境としては、市域西部の丘陵地や水田などの農耕地、愛知用水から取水されるため池群などがあります。また、市街地内には、樹林地、多くの社寺、雁宿公園や任坊山公園などの公園に緑が残されており、阿久比川や矢勝川、神戸川などの河川も生物にとって重要な生息環境となっています。

■半田市内の主な河川・ため池

主な河川

No	名 称
1	阿久比川
2	神戸川
3	矢勝川
4	稗田川
5	十ヶ川

主なため池

No	名 称	No	名 称	No	名 称	No	名 称
1	半田池	12	大曾池	23	宮池	34	上池
2	八助谷池	13	椎ノ木大池	24	苅谷口池	35	濁池
3	伊兵池	14	中池	25	康衛池	36	大洞池
4	三郷池	15	東の池	26	西ノ宮池	37	新田池
5	広脇池	16	長成池	27	弁天池	38	竈池
6	山神池	17	西午ヶ池	28	新居池	39	上定光池
7	池田大池	18	東午ヶ池	29	上苗代池	40	横倉池
8	折戸池	19	螻ヶ池	30	新池	41	杵廻間池
9	吉田池	20	浜池	31	霞池	42	南廻間池
10	松堀池	21	親池	32	横川池	43	広の池
11	古池	22	宮池	33	七本木池		

(2) 動植物

① 動 物

愛知県レッドデータブック（2009）によると、半田市及びその周辺（レッドデータブックにおいて半田市を含むメッシュ内）には、重要な種として、両生類が2種、昆虫類が1種、クモ類が3種生息する可能性があるとされています。

■半田市及びその周辺の重要な種

両生類	カスミサンショウウオ(☆☆☆)、ナゴヤダルマガエル(☆☆)
昆虫類	ウラギンスジヒョウモン(☆)
クモ類	コガネグモ(☆)、ミナミコモリグモ(☆☆)、オビジガバチグモ(☆☆)

※☆☆印は、各種の重要性を表し、愛知県レッドデータブック（2009）をもとに作成しています。



カスミサンショウウオ



ナゴヤダルマガエル



ウラギンスジヒョウモン



コガネグモ



ミナミコモリグモ



オビジガバチグモ

② 植 物

市域西部の丘陵地には、コナラークリ群落といった代償植生やクロマツ植林などの植林地植生が点在してみられます。また、自然植生のアラカシ群落が八幡神社周辺（神代町）、サカキーコジイ群集が成石神社周辺にみられます。

愛知県レッドデータブック（2009）によると、半田武豊地区（半田市・阿久比町・武豊町）には、24 科 40 種の重要な種が生育するとされています。



成石神社

■半田市及びその周辺の重要な種

科目	種類	科目	種類	科目	種類
アカウキクサ	1	キク	4	マメ	2
アカザ	1	コバノイシカグマ	4	ミズニラ	2
アリノトウグサ	1	シソ	2	ミツガシワ	1
イネ	3	スイレン	1	ムラサキ	1
イバラモ	1	タヌキモ	3	モウセンゴケ	1
オトギリソウ	1	ナデシコ	1	ユリ	1
カヤツリグサ	4	バラ	1	ラン	1
キキョウ	1	ホシクサ	1	リンドウ	1

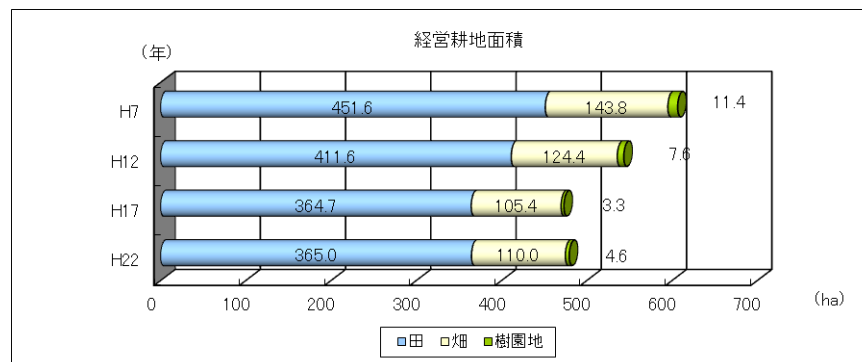
※愛知県レッドデータブック（2009）をもとに作成しています。



キキョウ

(3) 経営耕地面積

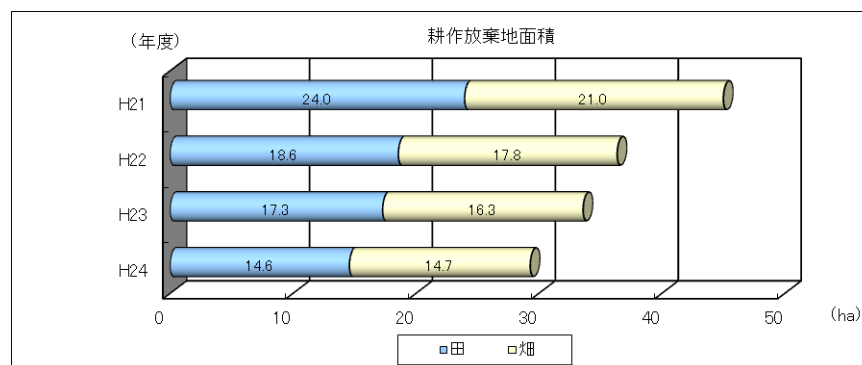
経営耕地面積は減少傾向にあり、平成22年には平成7年の79%に減少しています。内訳では、田が80.8%、畑が76.5%、樹園地が39.5%に減少しています。



資料：「農業センサス」

(4) 耕作放棄地

耕作放棄地は、減少傾向にあり、平成24年度には平成21年度の65.1%に減少しています。内訳では、田が60.9%、畑が70.0%に減少しています。これらは、作付けの再開や保全管理及び耕作放棄地を市民農園として有効活用を図っているためです。



資料：「半田市」

6) 快適環境

(1) 歴史的文化的環境

市の歴史的・文化的環境として、「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」など歴史と文化に溢れる多くの観光資源があります。

半田運河周辺は江戸時代から受け継がれている酢づくりのかおりが漂い、環境省の「かおり風景100選」に選ばれています。

また、国指定の重要文化財として旧中埜家住宅、登録有形文化財として小栗家住宅、半田赤レンガ建物があり、平成18年には亀崎潮干祭の山車行事が国の重要無形民俗文化財に指定されています。



半田運河



半田赤レンガ建物



亀崎潮干祭

(2) 公園・緑地

市内の公園・緑地は、半田運動公園、雁宿公園など102箇所（街園、県管理の緑地含む）、面積は94.6haとなっています。開設面積が1ha以上の公園は15箇所あり、面積は半田運動公園が最も大きく26.7ha、次いで雁宿公園の8.7haとなっています。

平成24年度の市の都市公園・緑地面積は、市民1人当たりでは、6.2m²であり、県平均（23年度）7.4m²や全国平均（平成23年度）9.9m²を下回っている状況にあります。街園、県管理の緑地を含めると7.5m²となります。

■市内の公園・緑地（県の管理を含む）

公園・緑地の種類	箇所数	面積(ha)
運動公園	1	26.70
地区公園	3	23.28
近隣公園	7	10.99
街区公園	43	11.71
街園	40	1.26
都市緑地	8	20.64

運動公園：主として運動を目的とした公園で面積15～75haを標準として配置。

地区公園：主として徒歩圏内に居住する者の利用を目的とした公園で面積4haを標準として配置。

近隣公園：主として近隣に居住する者の利用を目的とした公園で面積2haを標準として配置。

街区公園：もっぱら街区に居住する者の利用を目的とした公園で面積0.25haを標準として配置。

街園：小さな空き地を利用して木や花壇、あるいは噴水など配した小さな憩いの場。

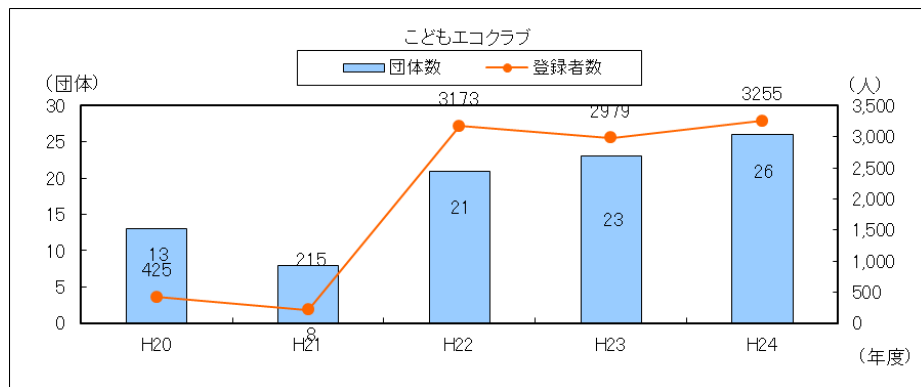
都市緑地：主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地。1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置。

7) 参加・協働

(1) 環境学習

こどもエコクラブ事業^{注1)}は、平成22年度に団体数、登録者数ともに大幅に増加しました。また、平成24年度には市制75周年を記念して本市で「愛知県こどもエコクラブ地域交流会」を開催し、クラブ間の連携を図りました。

市が事業展開している学校・地域連携環境学習推進事業^{注2)}では、岩滑小学校、板山小学校及び花園小学校の3校（平成25年度）において、地球温暖化についてや地元を流れる川の水環境などについて学習しています。



資料：「半田市」



愛知県こどもエコクラブ地域交流会



学校・地域環境学習推進事業

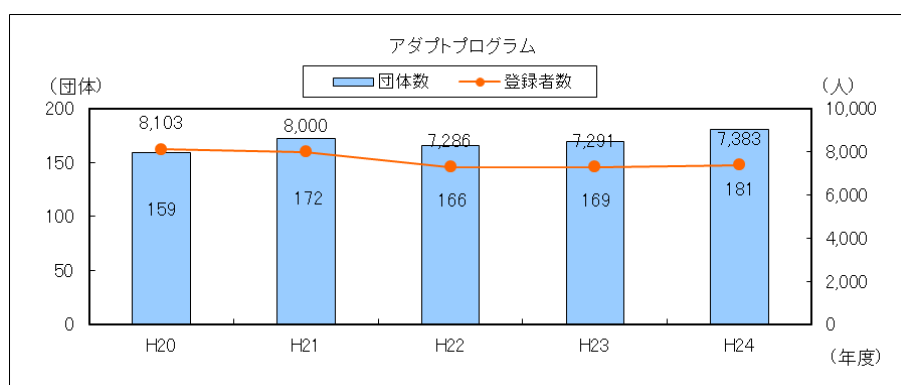
注1) こどもエコクラブ事業：次世代を担う子どもたちが、地域の中で仲間と一緒に主体的に環境に関する学習や活動をするクラブ。平成24年9月には本市において愛知県こどもエコクラブ地域交流会を開催した。

注2) 学校・地域連携環境学習推進事業：学校、地域、NPO、企業、行政等が連携し効率的な環境学習の実施を通じて、家庭、地域におけるエコライフの推進を図るため、市内小学校3校をモデル校として、地域の特性を活かした環境学習を実施している。

(2) 環境保全活動

美しく住みよいまちの環境づくりの基盤を築くため、市民が公共施設の里親になり、ボランティアで公共施設の管理と美化活動を行うアダプトプログラム（クリーンボランティア）を平成12年度から導入しています。登録者数は平成24年度末で7,383人です。

また、協働の機運が高まっており、市内各地で様々な環境保全活動が盛んに行われております。代表的な事例として、「有脇の農地・水・緑を守る会」がため池の保全のためにため池かいどり活動（池干し）を実施しています。



資料：「半田市」



アダプトプログラム



有脇地区でのかいどり活動

2. 市民・事業者・小中学生の環境意識とニーズ

平成 25 年度に一般市民・事業者・小中学生を対象に環境に関する意識調査を実施しました。（平成 19 年度にも同様の内容で実施）

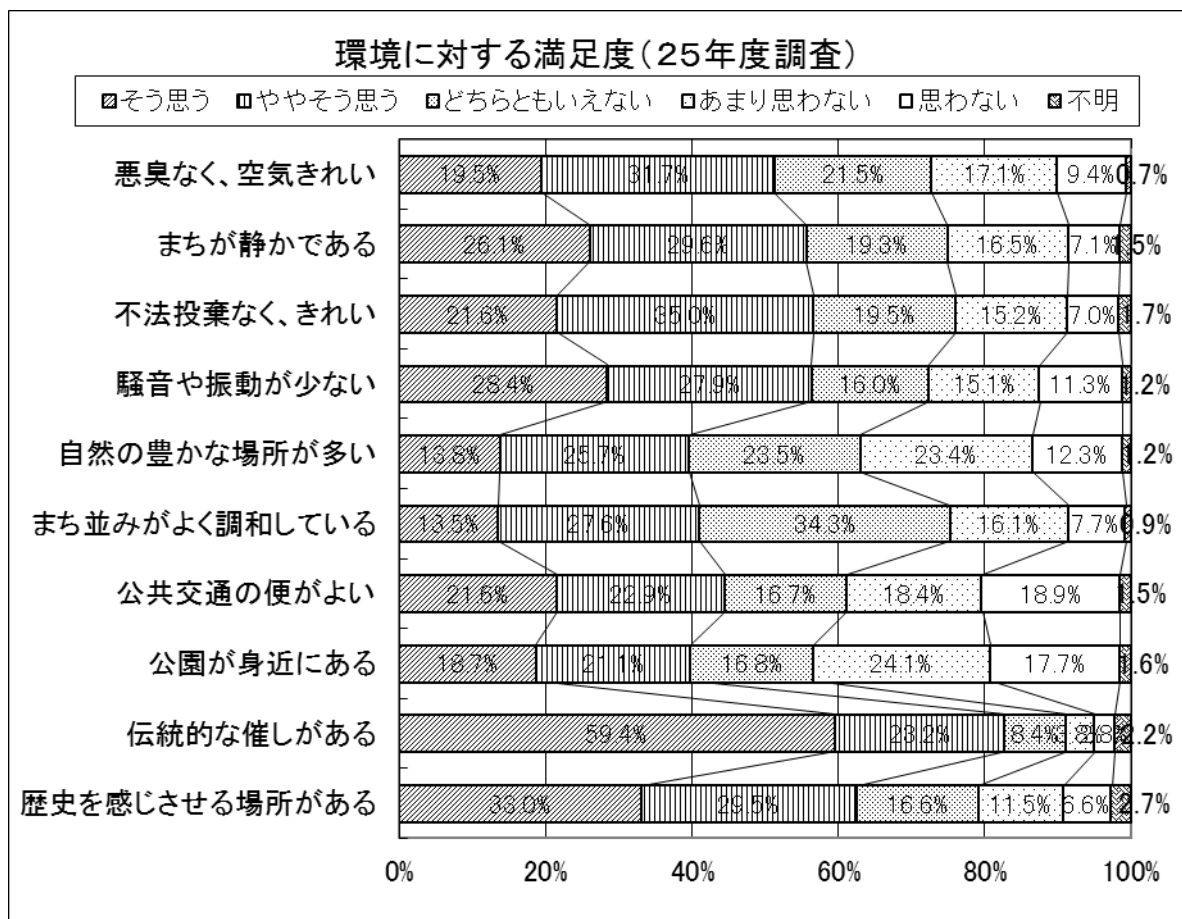
1) 環境に対する満足度

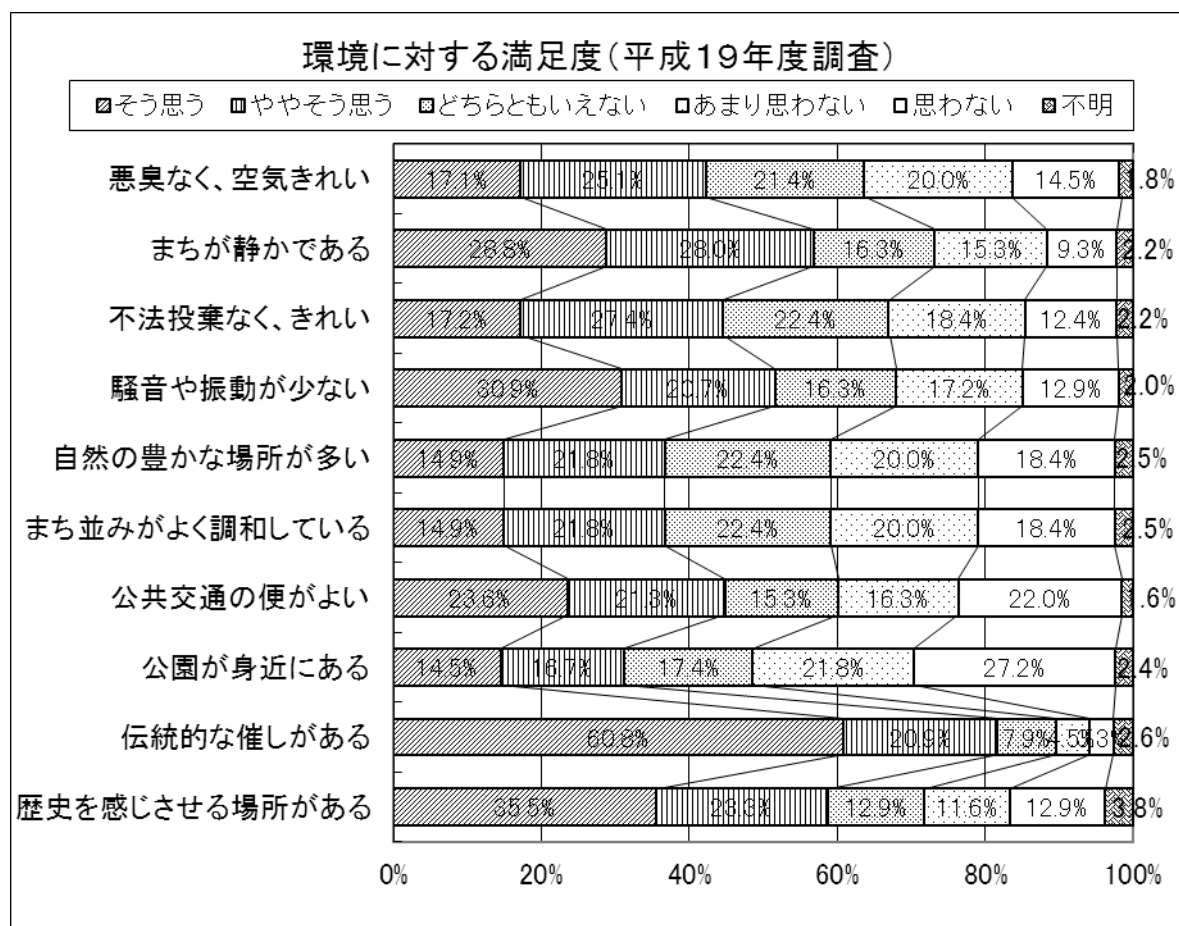
10 の環境要素についての満足度について整理しました。

各環境要素の中で、満足度の高いもの（そう思う、ややそう思うの合計）は、「伝統的な催しがある」、「歴史を感じさせる場所がある」、「公共交通の便がよい」となっています。

一方、満足度が低いものは、「公園が身近にある」、「まちなみがよく調和している」、「自然の豊かな場所が多い」となっており、これらの項目については、今後の対策が必要な項目であるといえます。

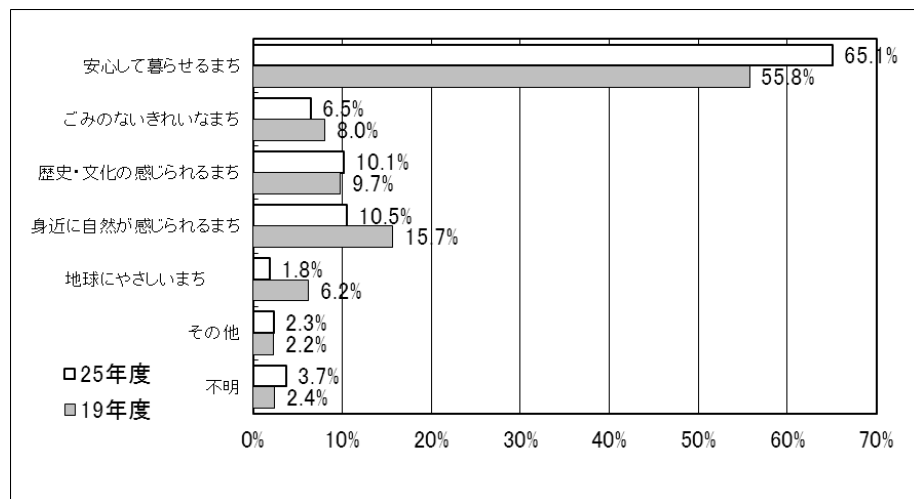
平成 19 年度の調査と比較すると「公共交通の便がよい」と思っている人の割合が増加しました。



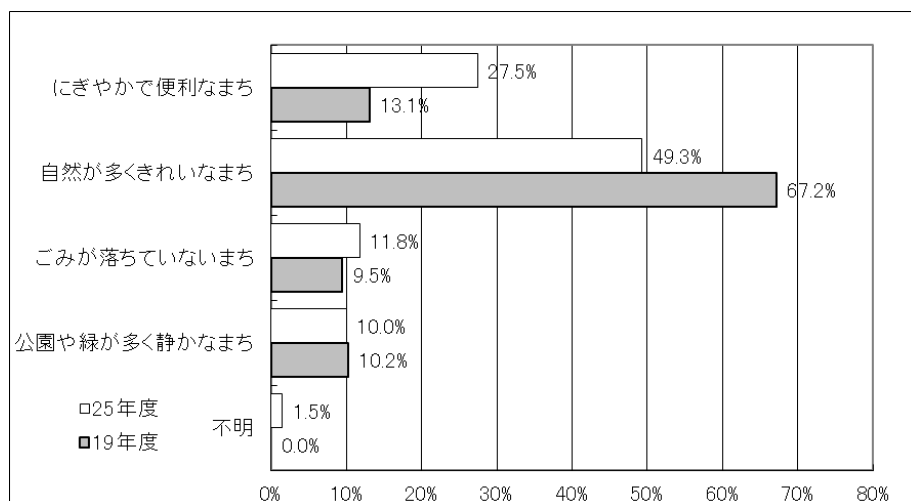


2) 理想像

市民が描く半田市の環境面からみた理想像は、「安心して暮らせるまち」が65.1%と最も多く、次いで「身近に自然が感じられるまち」(10.5%)となりました。平成19年度の調査と比較すると、「安心して暮らせるまち」が増加し、「身近に自然が感じられるまち」が減少しました。



また、小学生が望む将来の半田市は、「自然が多く空気や水のきれいなまち」が49.3%と最も多く、次いで「にぎやかで便利なまち」(27.5%)、「ごみが落ちていないまち」(11.8%)となりました。平成19年度の調査と比較すると、「自然が多くきれいなまち」が減少し、「にぎやかで便利なまち」が増加しており、自然環境が整っているまちよりも利便性の高いまちを望んでいる傾向が強くなっています。

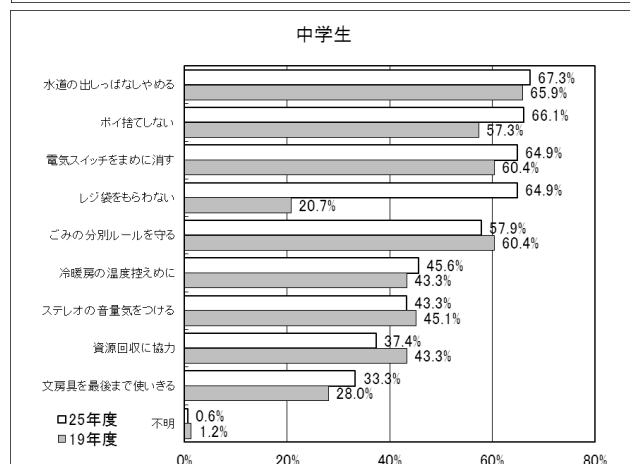
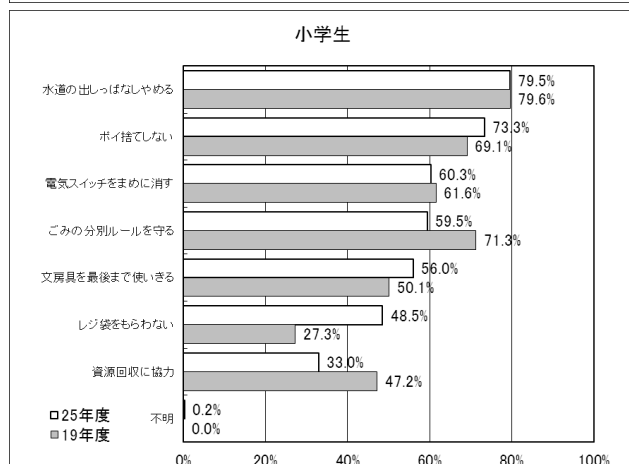
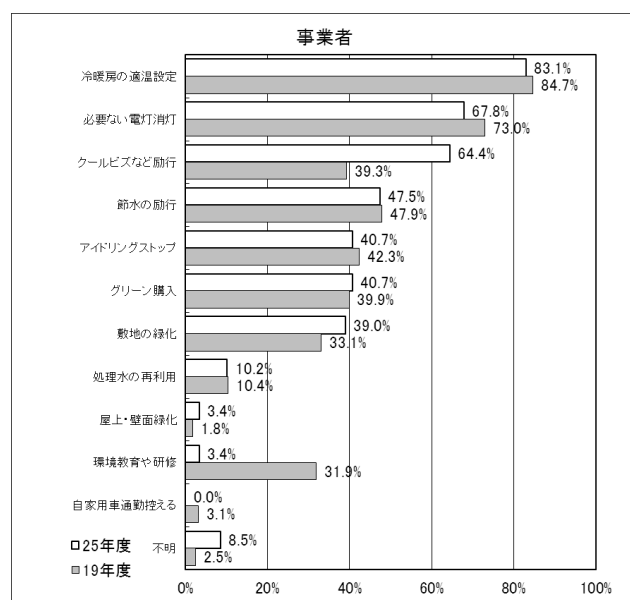
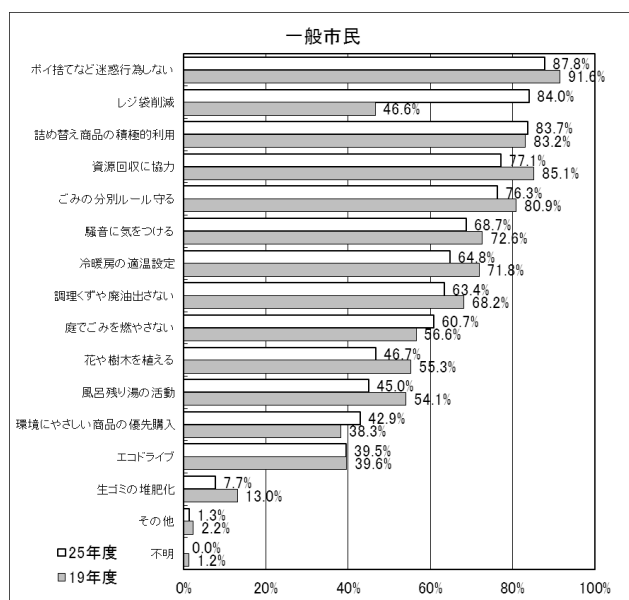


3) 環境に配慮した行動

各主体（一般市民、事業者、小中学生）別の環境に配慮した行動の実行状況として、一般市民では「ポイ捨てなどの迷惑行為をしない」、「資源回収に協力」、「ごみの分別ルールを守る」などのごみに関する取組みに、事業者では「冷暖房の適温設定」や「必要のない電灯の消灯」など、省エネルギーへの取組みに積極的でした。

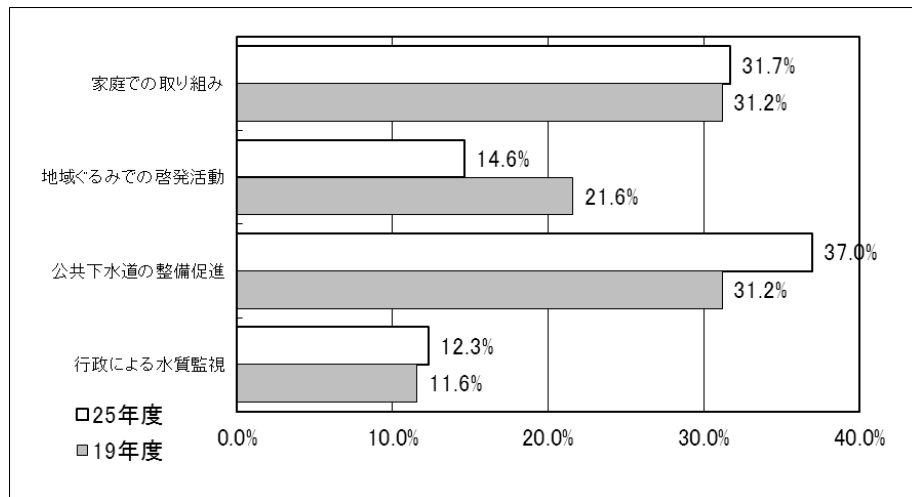
一方、一般市民、事業者ともに「エコドライブ」や「アイドリングストップ」、「自家用車通勤を控える」など、自動車や交通に関わる環境配慮行動はあまり実行されていない状況です。

平成19年の調査と比較すると、事業者は「環境教育や研修」への取組に消極的な傾向にありました。また、事業者を除く各主体で「レジ袋をもらわない」が増加しており、一部の店舗でレジ袋を有料化されたことが大きく影響していると考えられます。



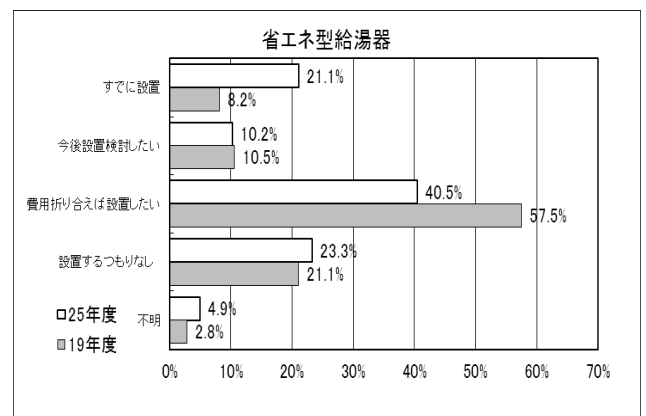
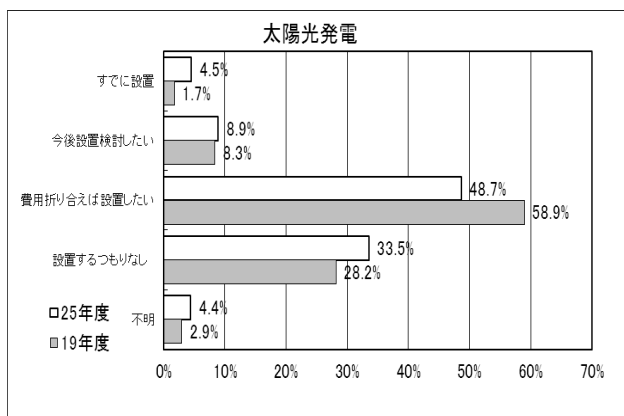
4) 水質改善方策

市民が考える最も重要な水質改善方策は、「公共下水道の整備促進」が37.0%と最も多く、次いで「家庭での取り組み」(31.7%)でした。平成19年度の調査と比較すると、「公共下水道の整備を促進する」が増加しており、下水道整備区域の広がりとともに公共下水道への接続意識が高まっているといえます。



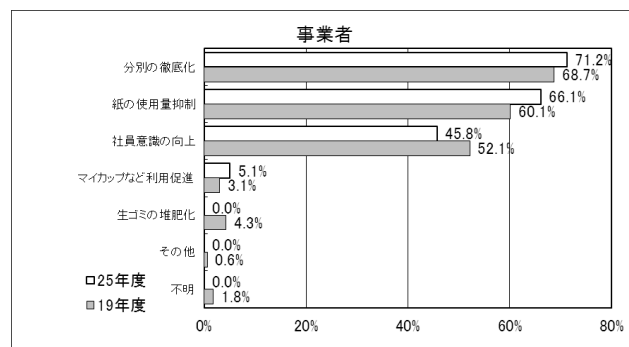
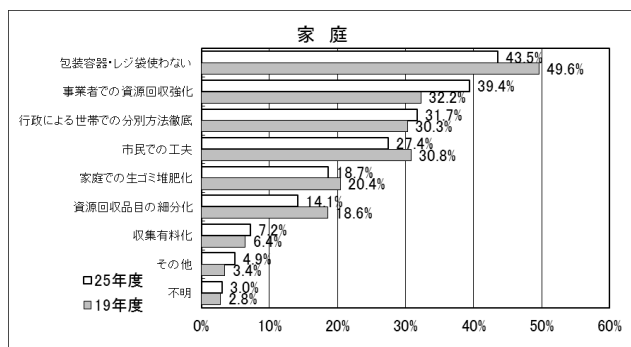
5) 省エネルギー

太陽光発電システムを設置している市民の割合は4.5%、省エネ型給湯器を設置している市民の割合は21.1%であり、平成19年度の調査と比較すると2.8ポイント(太陽光)、12.9ポイント(給湯器)増加していました。これは、東日本大震災後の節電・省エネ意識の高まりと機器の低価格化により、各家庭での設置が進んだことが伺えます。



6) ごみ減量方策

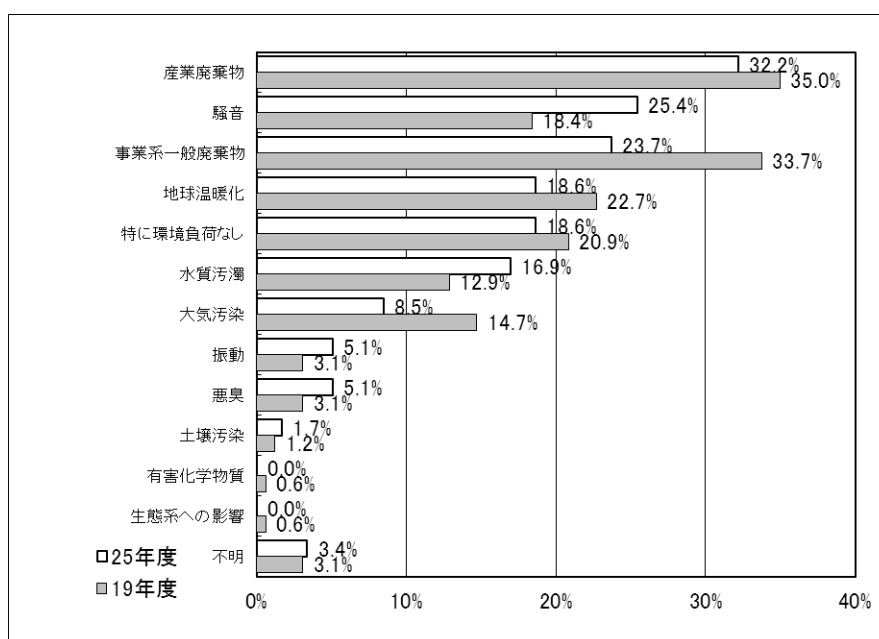
ごみの減量方策として、家庭では「包装容器やレジ袋を使わない」が43.5%と最も多く、次いで「事業者（店舗等）での資源回収強化」の39.4%でした。また、事業所では「分別の徹底化」が71.2%と最も多く、次いで「紙の使用量抑制」の66.1%でした。平成19年度の調査と比較して大きな変化はなく、家庭、事業所ともに、ごみの発生抑制やリサイクルへの取組みがごみ減量方策として最も重要であると考えているようです。



7) 環境への負荷

事業者が考える企業活動による環境負荷については、「産業廃棄物」(32.2%)や「騒音」(25.4%)、「事業系一般廃棄物」(23.7%)などが上位に挙げられました。

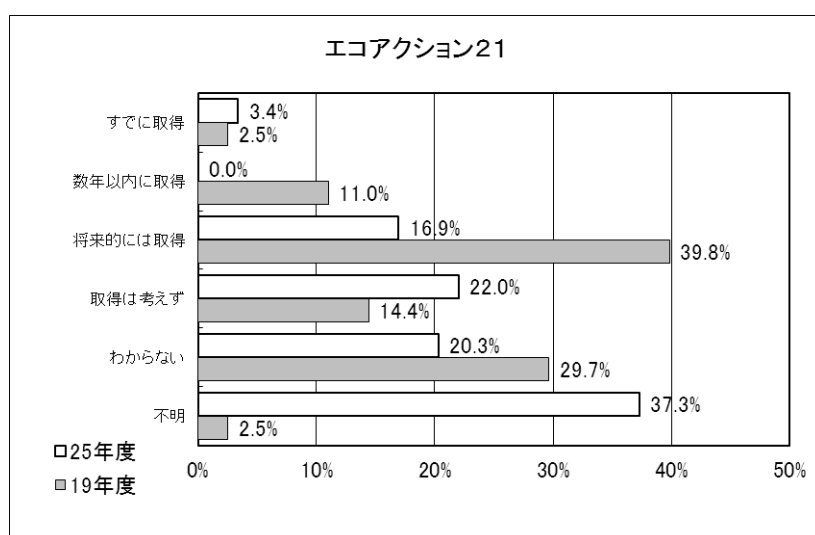
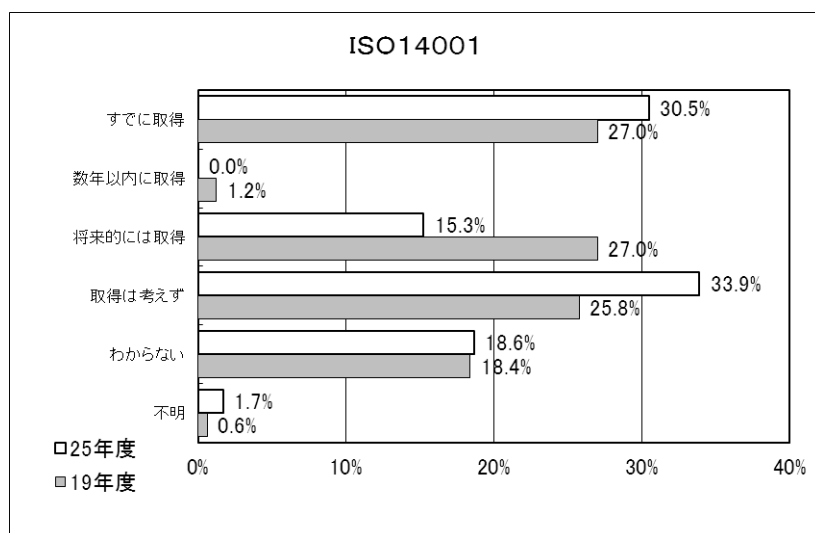
平成19年度の調査と比較すると、「騒音」、「水質汚濁」が特に増加しており、生活環境への配慮の重要性が増しています。



8) ISO・エコアクション導入状況

市内の事業所のうち、すでに ISO14001 を取得している事業所は 30.5%であり、エコアクション 21 を取得している事業所は 3.4%であり、ともに若干の増加がみられました。

しかしながら、平成 19 年度の調査と比較すると、いずれも将来的には取得を考えている事業所が大きく減少し、取得は考えていないと回答した事業所が増加していることから、環境マネジメントシステムの導入に消極的になってきている状況が伺えます。



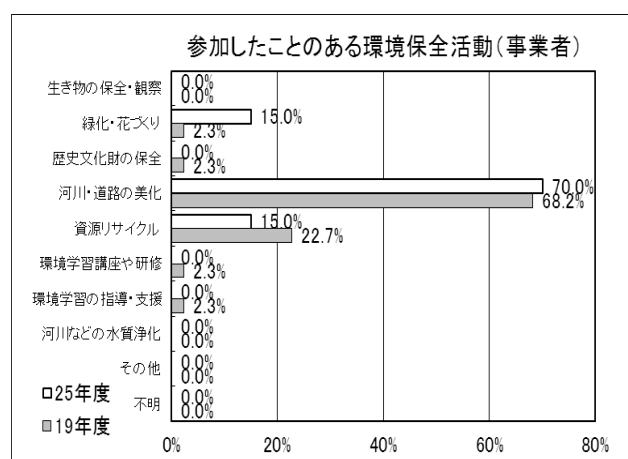
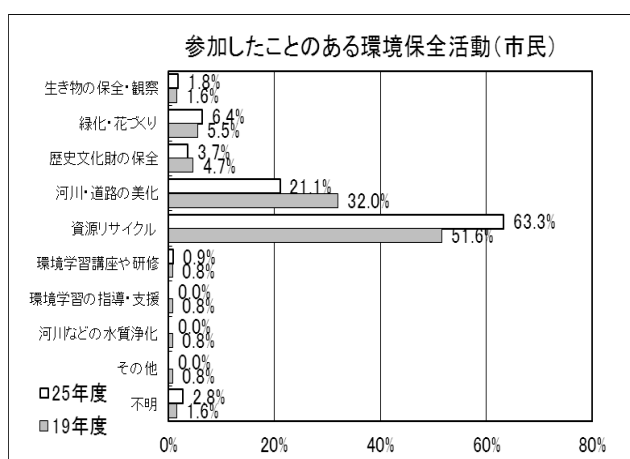
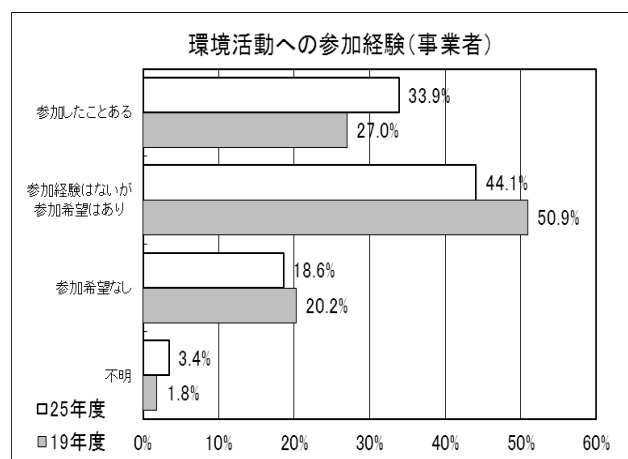
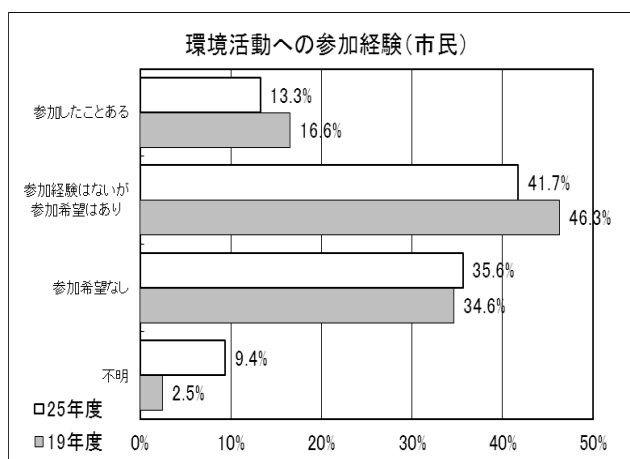
9) 地域の環境保全活動への参加

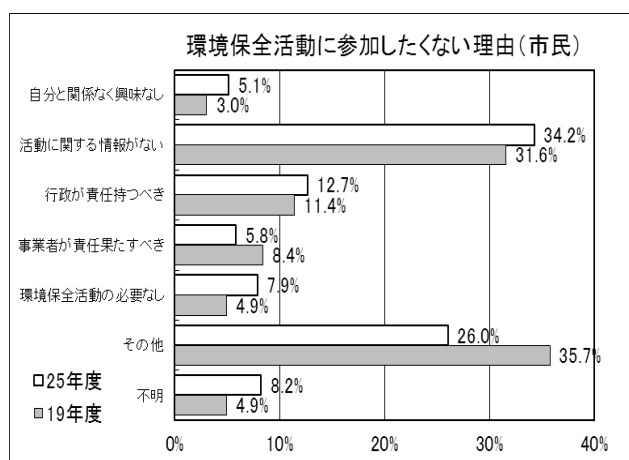
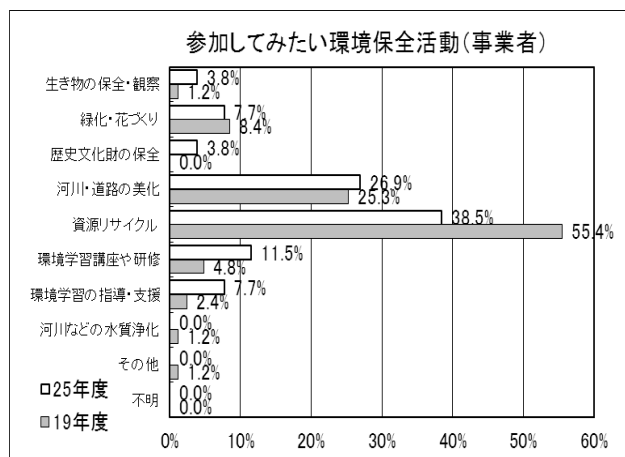
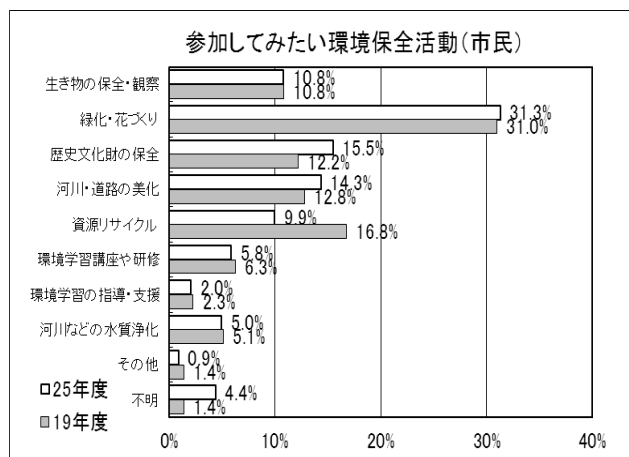
地域の環境保全活動への参加経験がある市民は 13.3%、事業者は 33.9%でした。平成 19 年度の調査と比較すると大きな変化は無く、市民、事業者ともに約半数が、参加経験はないものの機会があれば参加したいと考えているようです。

参加経験のある環境保全活動は、市民では「資源リサイクル」(63.3%)、事業者では「河川・道路の美化」(70.0%) が最も多い状況でした。平成 19 年の調査と比較すると市民では「資源リサイクル」が増加傾向にあり、事業者では「緑化・花づくり」が増加していました。

参加してみたい環境保全活動では、市民では「緑化・花づくり」(31.3%)、事業者では「資源リサイクル」(38.5%) が最も多くなりました。平成 19 年度の調査と比較すると市民、事業者ともに「資源リサイクル」が減少していました。

また、環境保全活動に参加したくない理由として、「活動に関する情報がない」(34.2%) との意見が多くありました。





10) 家族との話題

環境問題について家族と話をしたことがある小中学生に、その時の話題を尋ねたところ、小学生では「ごみや資源回収(リサイクル)について」が48.6%と最も多く、次いで「地球温暖化などの地球環境」(41.5%)、「山・川・生き物などの自然について」(39.3%)の順でした。中学生でもほぼ同じ傾向にありましたが、小学生に比べて「地球温暖化」への関心が高いことが伺えます。

